

ジェンダー平等意識の浸透

～誰もがいきいき、のびやかに～

昨年3月に瀬戸内町男女共同参画推進総合計画を策定したことを記念して、4回にわたり、計画に掲げた重点目標を解説したり、役場の取組を紹介してきました。今年度も引き続き、計画を踏まえた記事を掲載します。

誰もが個性と能力を発揮し、いきいきと暮らしていくためには「ジェンダー平等意識の浸透」が不可欠であることから、計画の重点目標の1番目に掲げています。今回は、この目標設定の背景にある町民の固定的性別役割分担意識や男女の平等感の変化について紹介します。(昨年11月号では、子育てに関する町民の意識を紹介)

重点目標Ⅰ ジェンダー平等意識の浸透

施策の方向

- 1 子どもの頃からのジェンダー平等教育の推進
- 2 住民のジェンダー平等教育・学習の推進
- 3 役場における男女共同参画・ジェンダー平等の理解の浸透
- 4 男女共同参画・ジェンダー平等に関する広報・啓発の推進
- 5 性別により格差や不平等が生じないための制度・慣習の見直し
- 6 福祉分野におけるジェンダー平等の浸透

具体的取組

- ・学校での子どもや大人対象のワークショップ、教職員対象のセミナー(ジェンダー平等学び合い事業)
- ・役場職員対象の研修
- ・町報への広報・啓発記事の掲載
- ・きゅら島交流館や役場等での啓発資料の展示
- ・小中学校制服の多様化への配慮
- ・性の多様性についての理解促進と尊重される環境整備

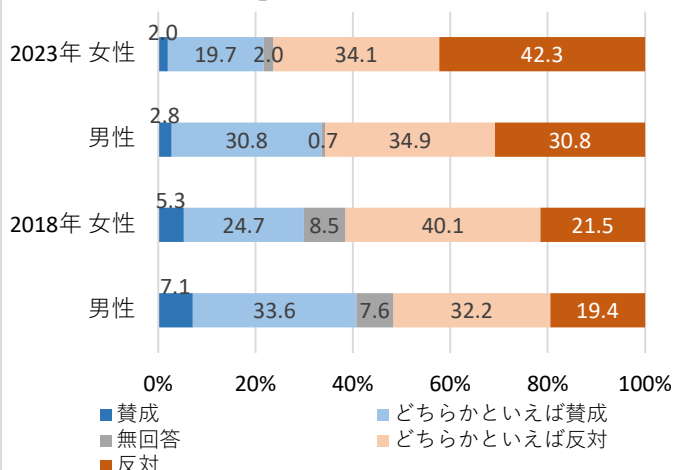
■固定的性別役割分担意識と家庭生活における男女の平等感・夫婦の家事分担

2023年と2018年の町民意識調査の結果を比較すると、ジェンダー格差(社会的・文化的な性別に基づく偏見や経済的不平等に関する問題)への社会的関心の高まりを背景に、「男性は外で働き、女性は家を守る」など個人の能力や資質とは関係なく性別で役割を固定化する考え方(固定的性別役割分担意識)は解消されつつあります。

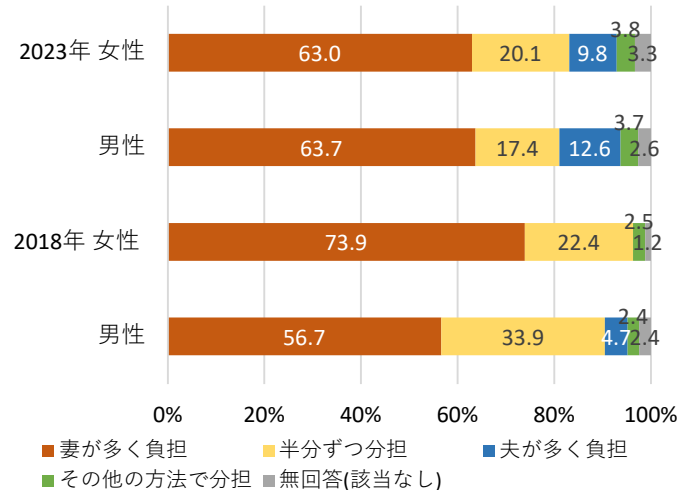
しかし、家事や育児、介護・看護における女性の負担が以前重いことから、家庭生活における性別による不平等感が高まっています。

性別による偏見や不平等を解消し、一人ひとりが生活や仕事の充実感を高めるためには、個人の意識改革とともに、職場における働き方・就労環境の見直しも必要です。

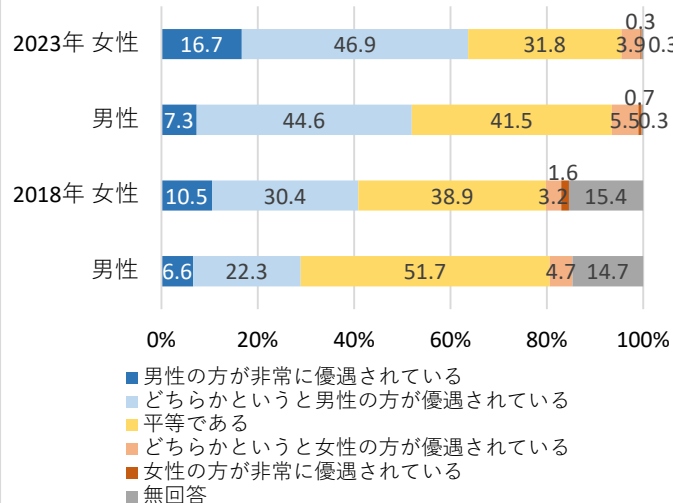
「男は仕事、女は家庭」など性別で役割を固定化する考え方



家事における夫婦の役割分担



家庭生活における性別による平等感



- ・『男女共同参画に関する住民意識調査報告書』(概要版を含む。)は、役場のHPに掲載されています。
- ・ジェンダー平等への理解を深めていただくため、今年度も学校で子ども達を対象にワークショップを実施します(5/20 嘉鉄小、5/21 古仁屋小)。また、5/21の18時半からきゅら島交流館で実施するワークショップには、町民どなたでも参加できます。